

取組事例の名称等

特定非営利活動法人犬山里山学研究所



取組の内容

1 環境講座、観察会

生物・環境講座や観察会の開催や、保全活動を行っている。

2 調査研究、展示

自然資料の収集や分析及び展示を行い、成果を広く発信している。

3 他の主体との連携

①小学校の総合的な学習の時間等における自然体験学習を実施している。

ねらい

大学や研究機関ではできない役割を担い、「市民がつくる里山学」形成を目指す。

工夫

- ・犬山市周辺の里山における調査研究結果を活用し、環境講座や観察会等の機会を捉えて、幅広い世代に向けて里山の大切さについて発信。
- ・環境講座や観察会等では、小さな変化に自ら気づくことができるよう、伝えるタイミングを工夫。



- ・旬の話題に関連した企画展示、植物の性質を活かした体験できる仕掛けづくりなど、来館者が楽しく学べるよう工夫。
- ・できるだけ標本、剥製、ジオラマなど具体性と視覚性を具えた展示になるよう工夫。



- ・生き物や植物などの様子を、匂い、音、感触などの五感を使って体験。先入観に捉われた体験にならないよう「現地で体感すること」「自分で体験すること」を大切に、現地体験を先に行うよう、学びの順番を工夫。
- ・犬山市内の小学校に対して、自然資料の収集や分析で得た知識・経験を活用し、身近な自然との触れ合いや学びを支援。



学習者の状況

学習者の自然への興味・関心は、様々である。

学習者（参加者）の反応

- ・参加するたびに新たな発見があり感動します。
- ・色々な生き物が採れて面白かった。
- ・子供の頃よくつかまえた生き物を改めて観察できた。
- ・名前がわかると興味がわいて面白い！



- ・「生きもの探偵」やオナモミを使った「魚釣りの展示」が子供たちに大人気です。
- ・魚釣りが楽しかった！
- ・生き物がどんどころにいるか分かった！
- ・里山の姿が模型でよく分かって良いと思います。



- ・春は中島池・新池周辺の自然、秋は田口大洞池・田口洞川の役割と周辺の自然、冬は里山について学び、最後に発表会・感謝の会で、これまで学んだことを発表し、お礼の手紙を渡しました。



- ・校区を流れる五条川の生き物環境調査では、予想以上に生き物がいっぱいとれて、五条川ってすごいなと感じました。



成果指標

大学や研究機関ではできない役割を担い、「市民がつくる里山学」形成を目指すことができたか。

学習の効果&主に育まれる力

- ・植物や生き物などの環境講座により、身近な自然への関心を高めることができた。
- ・視線・視点が変わり、今まで気が付かなかったことに気が付けるようになった。



- ・工夫を凝らした展示により、地域の自然環境に親しむ場として、実感を伴った学びを提供することができた。
- ・観察、探究の中に「遊び」の要素を入れることで、親しみを増す学びの場を提供できた。



- ・小学生の感性を通じると、ふだん見落とすものが見えてくることを、スタッフ自身が学び直す機会になった。「忘れてしまったもの」を取り戻すには、多くの人とのつながりが大切だと再認識できた。
- ・専門的な知識や経験を活かし、五感を使った体験の機会を提供することで、豊かな感性を育むきっかけとすることができた。



②地域の方等とともに、ふれあいの森や水生生物園を整備している。

- ・地域の方等と連携しながら、里地里山の自然環境を保全するために、ふれあいの森や水生生物園を整備。
- ・ふれあいの森を整備する際には、森の将来像を考えながら間伐や除伐を実施。
- ・水生生物園の整備活動では、草が繁茂してしまわないよう除草作業を継続しており、動物や植物がこれからも生存できる場所となるよう、そして、人と自然が共生していくことができるよう、それぞれの環境に合わせた整備を実施するよう工夫。

♡ 本物体験 ♡ 見守り ♡ 成果実感

- ・暑さ寒さが厳しい日の作業は大変ですが、仲間がいるから頑張れます。
- ・守るべき動物、植物があるので、何とかしようという思いを仲間と共有できる。



- ・里地里山の自然環境の保全を地域の方と連携して行うことで、自然との関わり方や触れ合い方を共有することができた。



■特定非営利活動法人犬山里山学研究所

- ・環境学習講座や観察会、標本の展示・保存、調査研究などを通して、里山に親しみながら生活する人づくりを進めている。
- ・平成 18 年にオープンした犬山里山学センターの受付管理を行い、収集した自然資料を常設展示や企画展示などで来館者が見られるようにしている。



犬山里山学センター



近くの小川での水生生物調査・観察



自然体験学習講座「昆虫教室」にてチョウの幼虫を観察

学習者（参加者）の変容

- 【環境講座、観察会の参加者のコメント】
 - ・家では触れない虫や、あまり有名ではない虫もじっくり見て楽しむようになった。
 - ・図鑑を見るようになった。（様々なものへの好奇心と観察力向上。）
- 【来館者のコメント】
 - ・生き物がどんどころにすんでいるかわかった。
 - ・色々な工作ができてうれしい。
 - ・見たことがない鳥や昆虫がいて感動した。（生き物や自然に対する興味が向上。）
- 【小学生からの手紙より】
 - ・お魚をとるのをいろいろな方法で教えてもらった。家で弟と一緒に教えてもらった方法で魚を捕まえてみた。（教えてもらったことを家で実践することから、反復学習や他者への共有が見られる。）

成果と課題

- 【成果】
 - ・犬山市周辺の里山の調査研究を活用し、地域の環境学習の場として実感を伴った学びを提供することができた。
 - ・小学校等への自然体験学習では、学校ではできない五感を使った体験により、子どもたちに豊かな感性を育むきっかけとすることができた。
 - ・「学び」、「実践」、「伝承」が一体となって初めて自然財産を守っていけることを再確認できた。
 - ・生物や環境の見方、関わり方の多様な価値観をどのように包括していくべきかを考える機会となった。
- 【課題等】
 - ・話の運び方などで子供たちに先入観を持たせてしまう可能性があるため、伝え方などの難しさを実感した。それらも含め毎回の反省会で、お互い気が付いたことを共有し、補い合うことが大切である。
 - ・ボランティアスタッフの高齢化に伴い、人員の確保等が課題となる。

小学校から寄せられた自然体験学習へのコメントのご紹介

■犬山市立城東小学校

【児童のコメント】

- ・野鳥の写真を見せてもらって、こんなにたくさんの野鳥が中島池に来ていたことに驚きました。でも、自然破壊によって、野鳥が減っていると聞いて残念です。私はエコ用紙を使って、自然を守りたいと思いました。
- ・アメリカザリガニ等の外来種が在来種を減らしていることを知りました。外来種のペットは最後まで責任をもって飼います。皆にも呼びかけたいです。
- ・城東の里山の自然は地域のボランティアの方々の活動のおかげで守られていると気付きました。私もボランティアに参加したいと思いました。

【先生のコメント】

- ・児童は実際に昆虫や植物を見たり、写真や標本を見せてもらったりして、城東の里山が自然豊かな地域であることに気付きました。しかし、年々その自然が減少していることを知り、自分たちにできる活動をしたいという思いを持ちました。ポスターやチラシ製作して環境を守るよう校内で呼び掛けたり、中島池・田口洞川のごみ拾い等の活動を行ったりしました。

■犬山市立羽黒小学校

【児童のコメント】

- ・タモロコがとれたことがうれしかったです。でも、一番たくさんとれたのはアメリカザリガニでした。外来種をどうしたら減らしていけるか勉強したいです。

【先生のコメント】

- ・毎年継続して行っている生き物調査から、徐々に五条川が環境がよくなってきていることに子どもたちは気付きました。今後も羽黒小学校のみんなで五条川を環境をよくしていきたいと子どもたちは考えるようになりました。